



まず、インフルエンザ感染症とは？

- インフルエンザウイルスによる気道感染症であり、「かぜ」とは異なり、全身症状が強い

感染（1～3日）	発症（全身症状は1～3日）	安静（3～7日間）	軽快（発症後7～10日）
潜伏期間 	38度以上の発熱 咳・鼻水 関節痛  のどの痛み 頭痛・筋肉痛 全身倦怠感		



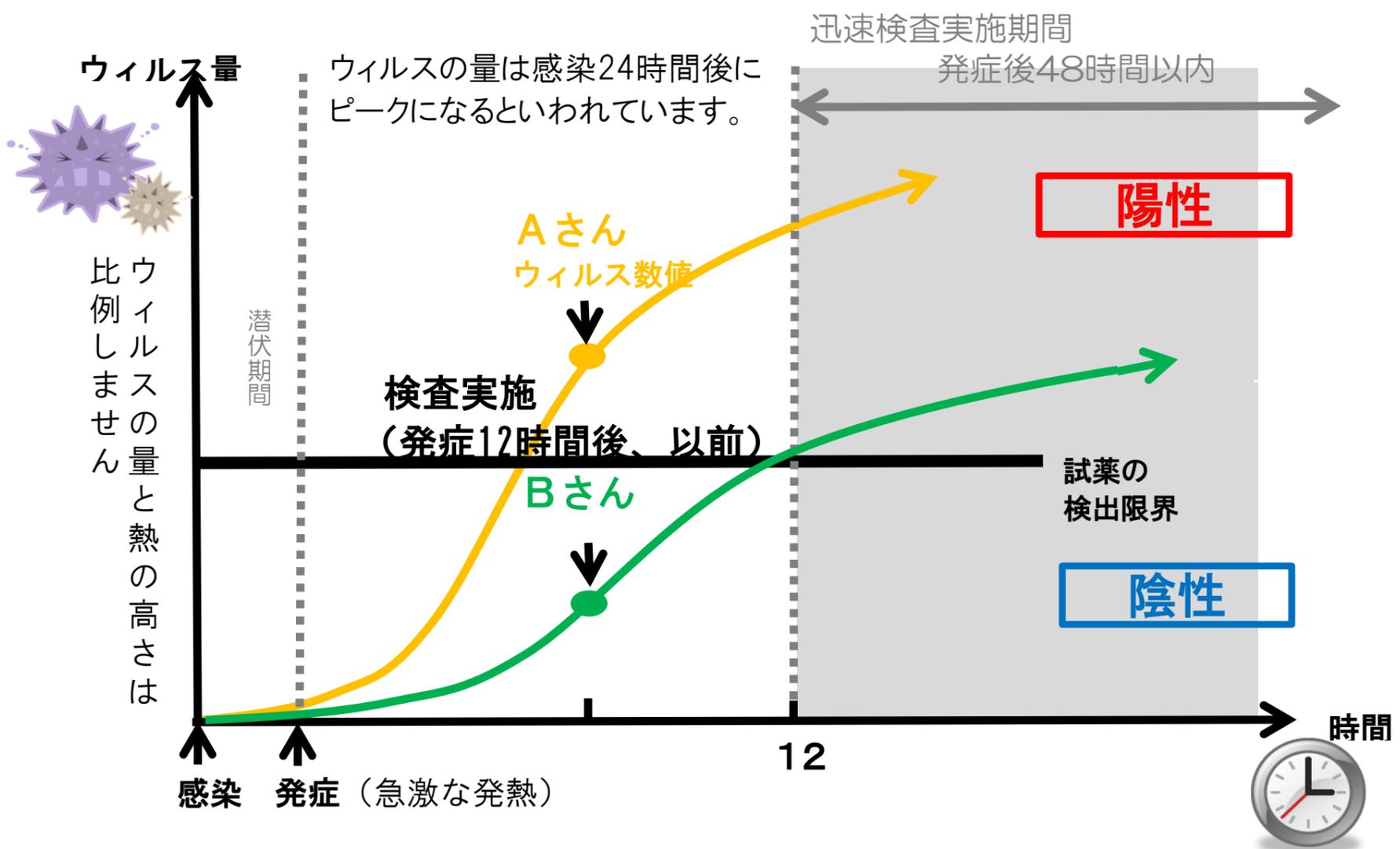
インフルエンザの診断はどうやってするの？

- 鼻咽頭ぬぐい液を採取し、インフルエンザに罹患したかどうかを判定。
（ウイルス量がすくなく陰性となるため、**発症後12時間以上経過していることが望ましい**）
当センターでは、検査結果が陰性の場合原則抗インフルエンザ薬は処方いたしません。
- 流行時には症状・診察からインフルエンザと診断できることもある。



インフルエンザ検査について！！

- 発症（急激な発熱）後、12時間以降が検査に適しています。
検査の時期が早いと右図のBさんの様にインフルエンザに感染しているにもかかわらずウイルスの量が少なく検査の結果が陰性となってしまいます。
その為、発症後すぐの検査は **おすすめいたしません。**





インフルエンザの治療はどうしたらいいの？

- 安静・休養し十分な睡眠、十分な水分補給（お茶・ジュース・スープなど）が原則。部屋は湿度を高く保ち（50-60%）、時々部屋の空気を入れ替える。
- 抗インフルエンザ薬も効果的であるが、注意すべき点がいくつかある。

当センター 在庫薬品	タミフル	イナビル	ゾフルーザ
服用方法	内服 2回/日 × 5日間	吸入 1回/日 のみ	内服 1回/日 のみ
適応	発症から48時間以内		
注意点		喘息患者には慎重投与 (誘発する恐れがある)	日本感染症学会では 「12歳未満は慎重投与を検 討すべき」との提言を発表
	※ 発症後、投薬の有無に関わらず 異常行動 が報告されているため、 診断後少なくとも2日間は就寝中もふくめて一人きりにならないように見守る		

※異常行動：普段と違う突飛な行動（急に走りだしたり、うろうろしたり）。うわごとや興奮したりする。幻覚を訴えることもある。

- その他、症状緩和目的で対症療法薬（咳止め・痰切り・解熱剤（アセトアミノフェンのみ））を処方することがある。



インフルエンザと診断されたら学校は何日休んだらいいの？

- 学校保健法により定められ以下の期間（2012年4月1日改正）

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで」



証明書について！

豊能広域こども急病センターは救急施設ですので

幼稚園・学校等に提出する証明書は発行できません。ご了承ください。